

派遣期間：2014年2月28日～3月21日

【学習成果について】

今回の実習を通じて一番感じられた学習成果は、英語に対する苦手意識を克服できたことである。もともと得意ではなかった英語をどうしても使わざるを得ない状態になったことで、相手の言葉を理解しようという努力や自分の意思を簡単な文章でも伝えようとする努力をすることができたと思う。お蔭で帰国直後には、初日に聞き取れなかった飛行機の機内放送が大分聞き取れるようになったと思う。また、今までは学术论文を読むことに抵抗を感じていたが、これからは今までよりも積極的に取り組めるのではないかと考えている。これは将来自分が医師となっても、大いに役立つ成果なのではないかと考えている。他にも、海外の基礎医学研究を知ることで、日本だけに留まらない世界規模の視点をもって医学を行うことの重要性も学べたのではないかとと思う。概して、この実習を通じて得られたものは大きかったように思われる。

【海外での経験について】

海外での生活は私にとって初めてのもので、正直なところ、出国前は不安がとても大きかった。だが、留学先でお世話になった人々に沢山助けられ、そして共に渡航した学友に支えられて何事もなく帰国することが出来たと思う。特に寮の人々は自分よりも年長の方が多かったが、学生の下手な英語にも嫌な顔をせずに向き合ってくれて、受け入れてもらえることのありがたみを感じられた。また、生活していくうえで欠かすことのできないコミュニケーションのありがた、必要性を改めて感じた。やはり英語で自分の考えを説明することはとても難しかったが、どんなに文法に誤りがあろうとも、相手の言葉をなかなか理解できなかりと、コミュニケーションをとろうとする努力が一番大切であると感じた。他の生活面では、日本では考えられないようなマナーに遭遇したり、日本の常識を不信な目でみられたりと様々なことがあったが、どれをとっても新鮮で新しい発見があったと思う。

【派遣プログラムの内容について】

派遣プログラムについては、金銭面でのサポートをもう少ししていただけると助かったというのが率直な感想である。派遣先のスウェーデンは日本に比べて物価が高く、生活費がどうしても高額になりがちであった。なので、せめて留学先の寮での滞在費や航空券代金をまかなえるくらいの補助をしていただけるとありがたいと思う。ただ、今回、この派遣プログラムが留学を決める上で助けとなったことは間違いがないので、貴重な機会を得るきっかけを下さったことに感謝している。

【今後の進路への影響について】

まず、今回の留学では海外の基礎医学研究を知ることが出来た。率直に言ってしまうと、当初研究分野を自分の進路の一つとして見据えてはいなかった。しかし、この実習を通じて研究も一つの選択肢として大いに有りうることを初めて実感した。実際、派遣先の研究所にも臨床医から研究医に転身された日本人の方が何人かおり、その方々のキャリアに尊敬の念を抱いた。今後基礎研究に自分が進むかはまだ分からないが、少なくとも今回の経験がその時に参考になることは間違いないと思う。

(須賀弓加)